全日本空輸株式会社所属
JA610A機体損傷事故調査の進捗状況

1．事故の概要

(1)	所　　属	全日本空輸株式会社
(2)	型　　式	ボーイング式 767－300型
(3)	登録記号	JA610A
(4)	発生日時	平成24年6月20日　13時23分ころ
(5)	発生場所	成田国際空港のA滑走路上
(6)	出発地	北京首都国際空港
(7)	目的地	成田国際空港
(8)	便名	ANA956

（9） 概要

当該機は、成田国際空港に着陸した際にハードランディングとなった。到着後の点検の結果、胴体の一部に変形が認められた。乗員１０名、乗客１８３名が搭乗していたが、全日本空輸によると乗客5名及び客室乗務員4名が軽傷（ねんざ、打撲等）を負ったとのこと。

写真1　JA610A

※ 損傷の程度が大修理相当のため、航空事故に該当

２．調査の状況

（1）機長、副操縦士の口述聴取

（2）客室乗務員の口述聴取

（3）管制官の口述聴取

（4）事故機の現況における損傷調査

（5）飛行記録装置（DFDR）及び操縦室用音声記録装置（CVR）の回収及び解析の開始

（6）気象情報の収集

３．これまでの調査により判明した主な情報

（1） 機体の損傷状況

主翼前方付近の胴体上部外板に、長さ約9mにわたり、幅約50cmの変形（しわ）２本が確認された。変形に伴う亀裂（クラック）が認められた。亀裂の主なものとして、約10cmのものが4カ所に認められた。客室内天井パネル2枚にはめ込み部が外れている部位が見られた。目視確認の結果、主脚及び前脚に大きな損傷は確認できていない。

（2） DFDRから判明した情報

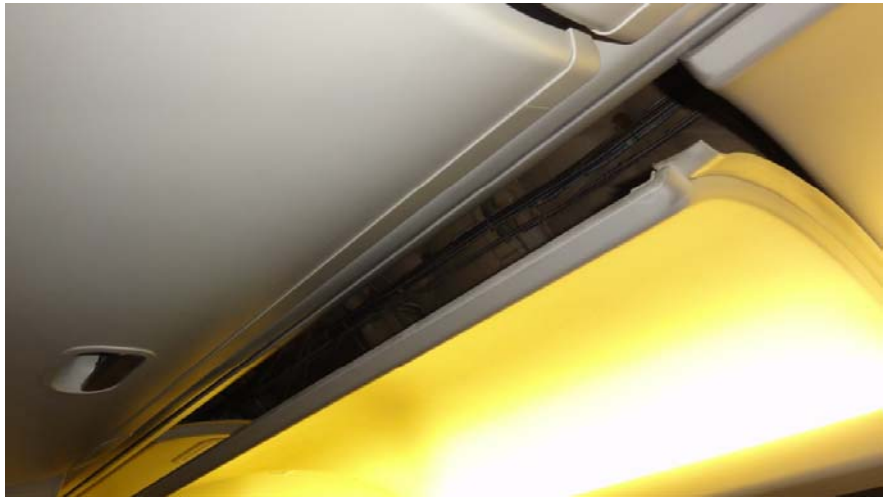
初めに右主脚が接地したが、機体が浮き上がるとともに地面から離れた。その後、前輪から接地し、右主脚、左主脚の順に接地した。さらに主脚の接地後、前脚が再び浮き上がった。前脚の接地時に加速度約１．８Gを記録している。

（3） 気象の状況

定時飛行場実況気象によると、風向はほぼ南西、平均風速は１６ノット、瞬間最大２９ノット／最小6ノットであった。右から強い突風を伴う横風の状況であったと考えられる。

写真2　機体の損傷状況

主な亀裂の様子



内装パネルが外れた様子

４．今後の主な調査予定

（1）DFDRデータ及びCVR音声の詳細調査

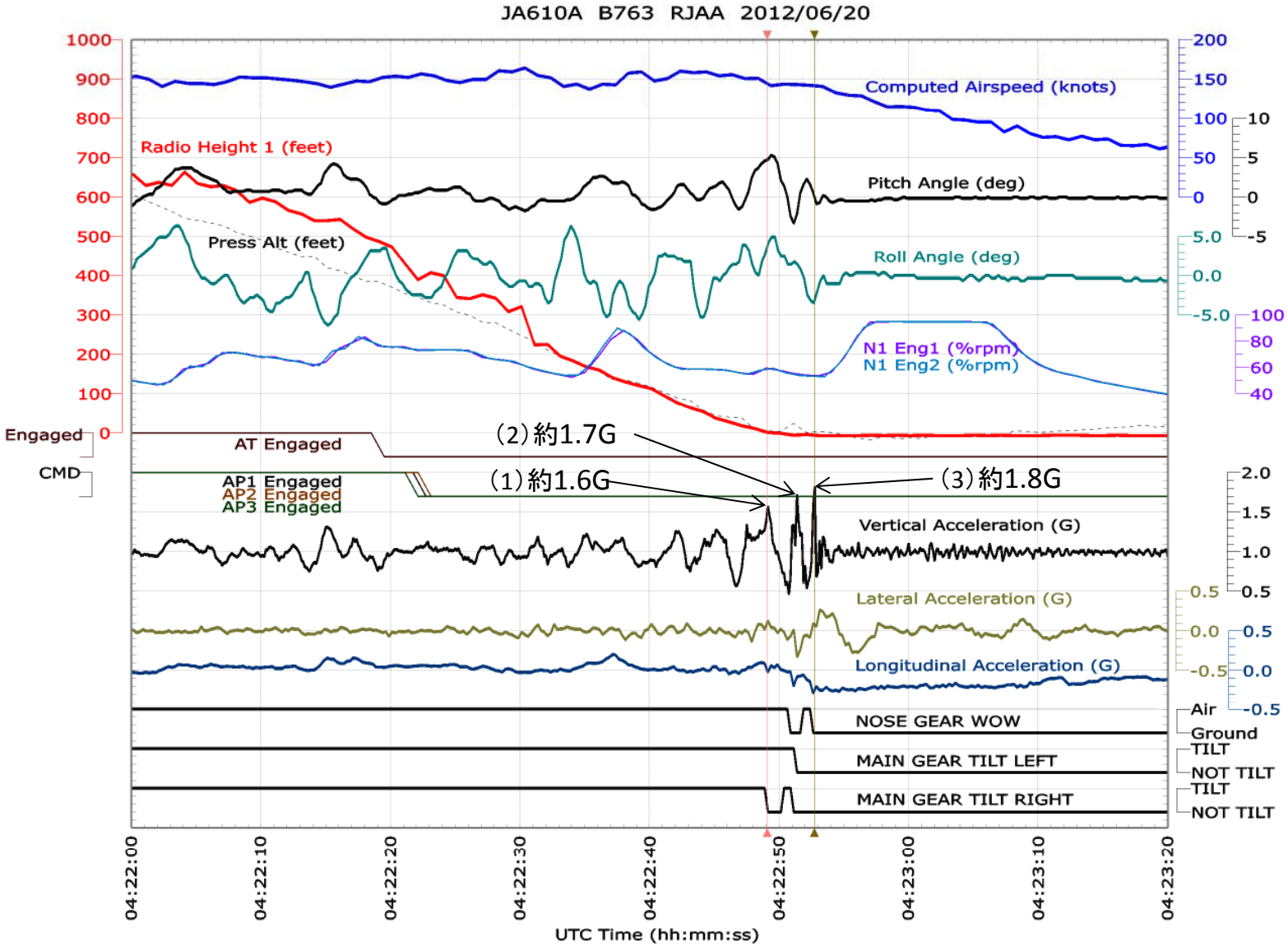
（2）損傷部位に関する詳細調査

（3）構造及び運動の解析による飛行状況の詳細調査

（4）操縦操作に関する詳細調査

（5）気象データ、管制交信記録等の情報収集

５．その他

機体の設計・製造国である米国の航空事故調査機関（NTSB）から代表の指名があった。

付図　DFDRデータ　（※ 詳細な解析の結果により、今後修正することがあります）